

令和 7 年度（2025 年度） 本科卒業式 専攻科修了式 式辞

卒業生並びに修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。また、これまで皆さんを支え、励ましてこられたご家族・関係者の皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんが在学した数年間は、社会が大きく揺れ動いた時期でした。感染症対応を経て、世界では地政学的な緊張が続き、国内でも人口減少や地域格差など、多くの複雑な課題が顕著化してきています。しかし、こうした不確実で混沌とした時代だからこそ、「技術で社会を動かす力」を持つ人材が強く求められています。

そして今、技術はかつてないスピードで進化しています。生成 AI の普及、量子技術の実用化、宇宙産業の拡大、そして GX（グリーントランスフォーメーション）の加速。これらは単なる技術の発展にとどまらず、社会の仕組みそのものを大きく変革しつつあります。皆さんがこれから活躍する世界は、まさに“未来そのもの”と言えるでしょう。

私は例年、入学式、年頭のメッセージ、そして卒業式・修了式において、皆さんには将来の「志」につながる、自分が関わりたい技術が描く“近未来社会”の「夢」を持ってほしいとお話ししてきました。吉田松陰は「志を立てて以て万事の源となす」と語りました。この言葉は、「志」とは“人生を動かすエンジン”であることを示しています。「志」があるからこそ、人は困難に向き合い、前へ進む力を持てるのです。

そのエンジンに火をつけるのは、たった一つの行動—最初の一步です。Facebook の創業者にして現在は Meta 社を率いるザッカーバーグ氏が「最大のリスクは、何も挑戦しないことだ」と語ったのは、その一步を踏みだし、挑戦することこそが未来を切り拓く唯一の道だからです。

そして、皆さんが活躍する未来に思いを馳せるとき、必ず思い出す人物がいます。高専生のみを対象とした DCON（ディープラーニング・コンテスト）の立ち上げに中心的な役割を果たした東京大学の松尾豊教授です。AI 研究の第一人者である松尾教授は、高専生の可能性をいち早く見抜き、高専生の“手を動かしながら考える力”こそが、これからの日本の未来を創る原動力になると語っています。皆さんが培ってきた“つくる力”が、その期待に応えるのです。志を胸に、その持てる力で一步踏み出すことで、皆さんの未来は必ず拓けていきます。

一人ひとりが主役です。

どうか、皆さんには“未来の訪れを待つ側”ではなく、“未来をつくる側”に立ってほしい。技術には社会を変える力があります。そして、その力の方向を決めるのは、技術を使う皆さん自身の「志」です。本校で身につけた技術力と実践力に自信と誇りを持ち、新しいステージへと踏み出してください。皆さんの活躍を心から期待しています。

本校はこれからも皆さんを応援し続けます。卒業・修了する皆さんには、母校を生

涯の学びの場として、これからも積極的に活用していただけることを願っています。

そしていつの日か、「志」を持ち、夢の実現にむけて歩み続けている皆さんとの再会

を願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和7年3月16日

東京都立産業技術高等専門学校

校長 吉澤 昌純